しがレクからのおたより

令和元年度　第３号　2020 年１月発行

滋賀県レクリエーション協会　事務局　発行
〒525-0052　滋賀県草津市西矢倉 3-17-13 黒川かず江方
E-mail：office@shigarec.com

ご　挨　拶

明けましておめでとうございます

滋賀県レクリエーション協会
会 長　前 山　亨

令和を迎え、初めてのお正月、会員の皆様ご健勝のこととお慶び申し上げます。

会員数の減少はますます拍車をかけていますが、今年はオリンピック・パラリンピックの年、さらに来年はワールドマスターズゲームが関西中心で開催され、レクリエーション協会もいろいろな形で支援していかなければなりません。ワールドマスターズゲーム2021では、だれもが出場でき、場合によるとだれもが世界チャンピオンになれる絶好の機会です。正に生涯スポーツの祭典です。滋賀県でもいくつかの種目を開催し、多くの方々に興味を持っていただければと、準備を進めています。

レク関連としてはパドルテニスがオープン種目ではありますが、守山市で開催されることが決まりました。県パドルテニス協会ではこれから準備に追われますが、何とか成功裏に終えるべく頑張っています。県レク会員の皆様も、一度顔を出していただき、パドルテニス、さらには多くのニュースポーツの普及ができますよう応援していただければ幸いです。

レクは『心の健康づくり』を目指しており、出会いが目標に向かって進む第一歩であると考えられます。

県民の『心の健康づくり』もさることながら、私たち自身の健康づくりこそが求められているように思います。このような機会が与えられている今こそ、レクの真のすばらしさを再確認できれば素晴らしいことだと思います。

フォローアップセミナーの次回ご案内

本年度の第２回フォローアップセミナーを令和２年２月２９日（土）に大津市堅田市民センターで開催します。折り紙その他の材料を使ってのクラフトです！

◆日　時：令和２年２月 29 日（土）　9:15～12:15
◆内　容：大人の折り紙（ひな祭りリース飾り）
　　紙芯（ロールティッシュ等の芯）でつくろうピカチュウ・ミニオンズ
◆場　所：大津市堅田市民センター
◆材料費：３００円（材料費）
◆持参物：筆記用具、はさみ、作品持ち帰り用袋、保険証等
◆申込み：氏名、電話番号を明記し、FAX で事務局（077-579-2997）

全国レクリエーション大会開 in 宮城 2019 報告

９月１３日～１５日、宮城県で行われた「第 73 回全国レクリエーション大会」に行ってきました。福祉レク・ネット「この指・とまれ」と日野レクの皆さん、合計６名での参加です。交歓のタベでは坂田さん(滋賀)に会い杯を酌み交わすことができました。

８年前の東北の震災や復興の状況を自分の目で見たいというのと、年に一度全国の仲間に会えるのを楽しみに参加してきました。

右の写真は交歓のタベの乾杯の後のアトラクションです。生演奏だけあってすごく迫力がありました。

この後、左から二人目の方が前川清の♪神戸…って歌っておられました。

下の写真は東京音頭を参加者全員で踊られてビックリしました。会場全体が熱気にあふれて、とにかく凄かったのですが、その凄さを、お伝えできないのが残念です。この後、気が付けば皆さんすっと帰られていて、ビックリ！

二日目は朝から「復興支援」に行くぞ！と、まず「大川小学校」を見てきました。校舎２階の天井まで津波が来たそうで、そのままの状態で残っていました。なぜ裏山に避難しないで学校の前の川に向かったのかとマスコミで言っていましたが、いったん正門を出て川の方に行かないと裏山には行けないということもわかり、子どもたちは押し寄せてくる津波に恐怖を感じる間もなく流されていったのかと思うと、胸が痛みました。

ボランティアの学生さんが校庭の草取りに見えていて、絶対風化させてはいけないという思いと小さいけど大きい支援の力を感じました。遠く愛知県からも見えていました。

その後、奥松島の震災伝承館に行きました。１０mの津波で一つの町がすべて押し流されたお話を聞き、改めて毎日平穏に過ごしていることのありがたさに心から感謝しました。

以上、滋賀県福祉レクリエーション・ネットワーク「この指・とまれ」代表 松藤弥一郎 (9/17 記)

第 13 回滋賀県レクリエーション大会中央大会

2019 年 9 月 23 日（月・祝）、栗東市民体育館においてジャパンスローイングビンゴ協会の協力のもと開催されました。滋賀県レクリエーション協会の前山会長挨拶、開会宣言の後、ジャパンスローイングビンゴ協会名誉会長の山川博様が滋賀県レクリエーション協会より功労者として表彰されました。

台風の影響を心配していましたが、参加チーム 48 チーム、参加人数 193 名で子どもからお年寄りまで和気あいあいの熱戦が繰り広げられました。

体験コーナーでは、滋賀県レクリエーション協会のメンバーと体験参加者でチームを組み、３ゲーム（1 ゲーム３回）の試合をしました。初めは 350g のサンド・レッド（専用投球袋）が８m 前方の一辺１m縦・横 5 個、計 25 個の方眼に思うように投げられず、リーチ（4 つ並んでいる状態）もままならない状態でしたが、段々コツもつかめて、ビンゴ（5 つ並んでいる状態）10 点と、ビット（目標袋）のある方眼に入れることができ、5 点の加算で合計 15 点を獲得できるまでに腕を上げることができました。

しかしその後、各チームの観戦をさせていただきましたが、その技術の高さに感心するばかりでした。栗東市スポーツ推進員の皆様方のお手伝いもあり、円滑に歓声の中、滋賀県レクリエーション大会中央大会を終えることができました。

開会式

大会の様子

式

功労者表彰　山川氏

体験コーナー

滋賀県キンボールスポーツの活動について

滋賀県キンボールスポーツ連盟　会長　木村貞樹

キンボールスポーツは、１９８６年カナダケベック州のマリオ・ドゥマースによって考案された今までにない、新しいタイプのスポーツです。インパクトのある巨大なボール、特徴のあるルール、教育的でもあるコンセプト「共遊・主体・創造」はコミュニティや学校で受け入れられ、急速に普及しました。

日本では１９９７年１０月にスポーツ普及団体であるフレンドリー情報センター（当時）の吉田正信所長の要請により、マリオ・ドゥマースが来日し、競技を紹介。その後設立された日本連盟が中心になり、講習会等を通じて普及活動普及活動を推進し、現在では幼稚園児から学生、一般、シニア層まで幅広い年齢層の男女が楽しんでいます。　１９９８年２月に滋賀県スポーツ振興事業団（現体育協会）主催のリーダー講習会で初めて紹介されると共に全国各地で普及活動がなされました。また、２０００年の８月に野洲町総合体育館（野洲市）で「第１回キンボールジャパンオープン」が開催されるなどキンボールの普及には滋賀県が大きなきっかけをつくりました。当時は、滋賀県体育指導員（現スポーツ指導員）の皆さんが中心となり滋賀県内の各市町で新しいスポーツとして実施していただきました。また、役員のほとんども体育指導員が中心でありましたが、その後国の行政改革に併せで各市町が合併に伴い体育指導員が減少し、滋賀県キンボール連盟の組織も弱体化し現状に至っております。しかし、滋賀県立大学には、キンボールスポーツ愛好クラブ「桃球」が１５年前に設置され、全国大会に出場したり、ジャパンチームの一員として世界大会に出場するなど活躍してくれていますが、学生のほとんどが県外出身のため卒業と同時に他府県に流れてしまうことで連盟を支えてくれる人材が育たないことが大きな課題になっています。

しかし、最近は滋賀県民総スポーツ大会のレクリエーション部門の種目として、また、滋賀県青年団主催の滋賀県青年大会競技種目に選ばれ、毎年協力させていることから再びキンボールスポーツを楽しもうという仲間が少しずつではありますが出てきたことを喜びとしております。特に、競技スポーツとしてのキンボール（コンペティションゲーム）だけでなく段階的にボールに親しむ（リードアップゲーム）が遊び感覚でボールコントロールを身につけることができ「共に生きることを喜び、生きる力をつける」スポーツゲームとして認知されてきていると自負しております。

（講習会：リードアップゲーム）

（ジュニアの部）

令和元年滋賀県民総スポーツ大会